

R7. 1. 22 教育委員会会議資料（学校給食課）

学校給食費について

1. 内容

本市学校給食の水準を確保・維持するため、令和7年度から給食費を改定する。

2 現況

本市の学校給食費は、令和5年4月に現行価格へ改定を行ったが、改定後も物価上昇は続き、給食費に関する収支赤字となっている。献立内容の工夫を重ねることで内部吸収すべく取り組んでいるが、物価上昇は内部努力による吸収可能な範囲を超える状況が続いており、学校給食の質の維持が困難となっている。

3 改定内容

(1) 学校給食費

小学校：1食あたり 305 円とする。（現行 275 円、値上げ額 30 円、改定率 10.91%）

中学校：1食あたり 360 円とする。（現行 325 円、値上げ額 35 円、改定率 10.77%）

(2) 実施年月日：令和7年4月1日

4 改定理由

(1) 給食費収支均衡の回復

- ・ 物価水準の上昇による収支赤字

物価水準を示す消費者物価指数は、前々回（平成27年4月）改定の基準となった平成26年11月時点(91.7)から令和6年11月時点(121.3)までの間に29.6ポイント上昇している一方で、この間の給食費改定は前回（令和5年4月）のみであり、その改定率(約10%)以上に物価水準が上昇したことにより、収支赤字が続いている。

これにより、現在の学校給食費基金残額約1億5,100万円は、交付金が活用できなくなった場合、収支赤字を補填することで、令和8年度中にも枯渇する見込みである。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度 (見込)
単年度収支 ※	1,406,994	▲ 69,320,016	▲ 80,438,716	▲ 71,729,980	▲ 55,335,988	▲ 86,407,295
交付金 (物価高騰)	0	0	0	61,998,294	46,530,922	79,407,000

※単年度収支 … 現年度調定額・交付金（改定差額、無償化等）の合計額と食糧費・配送委託料の合計額の差額

(2) 学校給食の質の維持

- ・ 固定費（主食費・牛乳費・副食配送費）の増加

主食、牛乳及び副食配送費に係る固定費の増加により実質副食費が圧迫されている。令和5年度に給食費を改定したが、改定前より副食費が圧迫されている状況であり、使用できる食材が制限され、献立内容の質の低下が課題となっている。

さらに、令和5年産米の流通量が全国的に減少したことによる民間在庫量の減少等の影響により、令和7年度（R7.4～12）契約予定の委託米飯における主原料（精米）費が前年度比で約1.5倍となり、近年にない大幅な値上がりとなることが決定的であり、実質副食費が現在の水準からさらに減額されるため給食の質の維持ができない。

5 今後の方針

- ・ 保護者等への経済的負担軽減

令和7年度は重点支援地方交付金を活用し、次のとおり保護者負担の軽減を図る。

	R7年度給食費		保護者負担額
小学校	305円	⇒	275円（R6年度負担額に据置）
中学校	360円	⇒	325円（R6年度負担額に据置）

◀参考▶ 他市給食費の状況（令和6年12月時点）

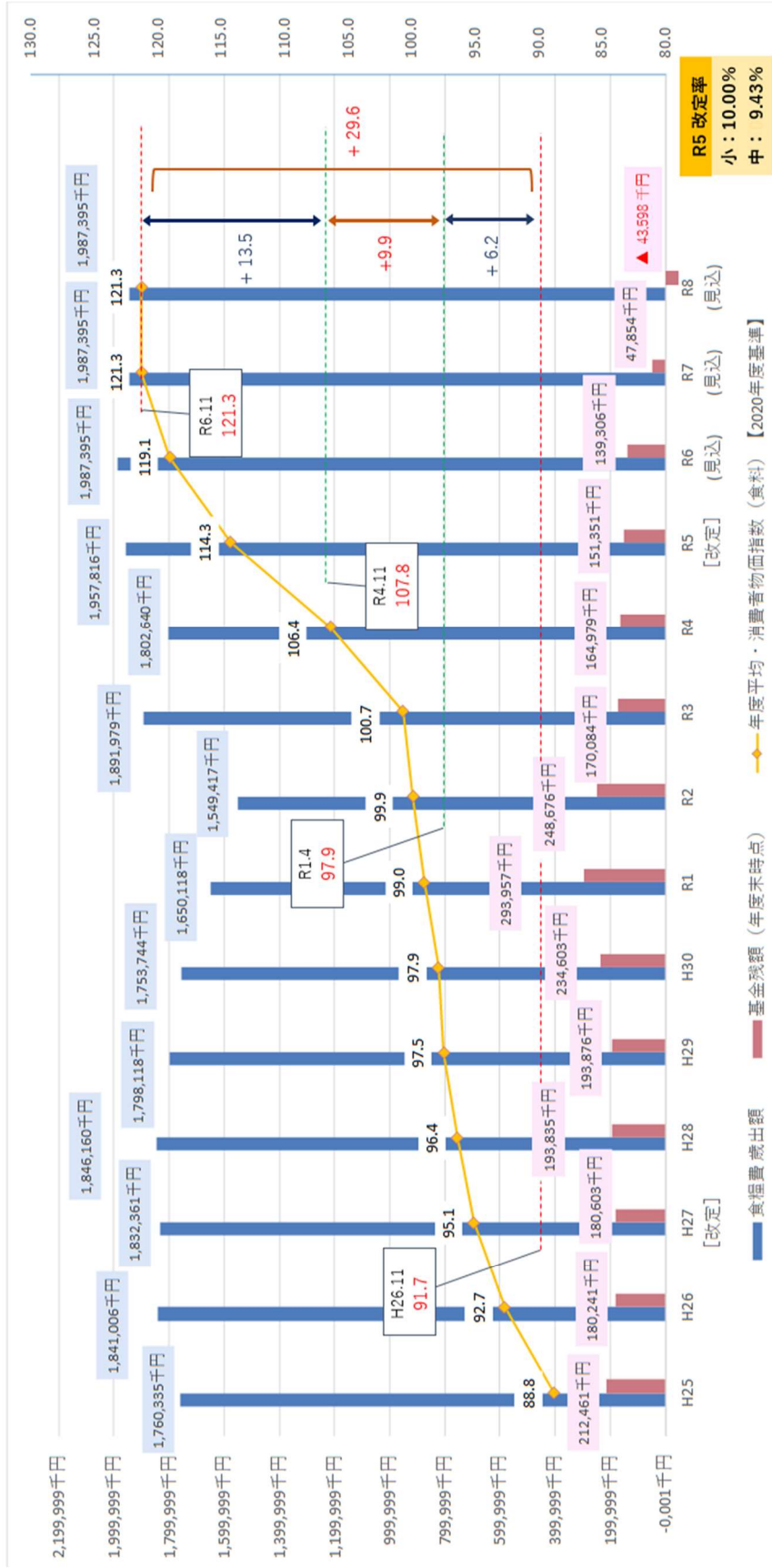
■ 令和6年度 中核市学校給食費比較 ※中核市の内、1食単価不明のため寝屋川市は除く

小学校				中学校			
1食単価		保護者負担		1食単価		保護者負担	
西宮市	275円 43位/61市	西宮市	275円 12位/61市	西宮市	325円 46位/61市	西宮市	325円 16位/61市
平均	291円	平均	222円	平均	343円	平均	242円
最高額	350円	最高額	310円	最高額	425円	最高額	385円

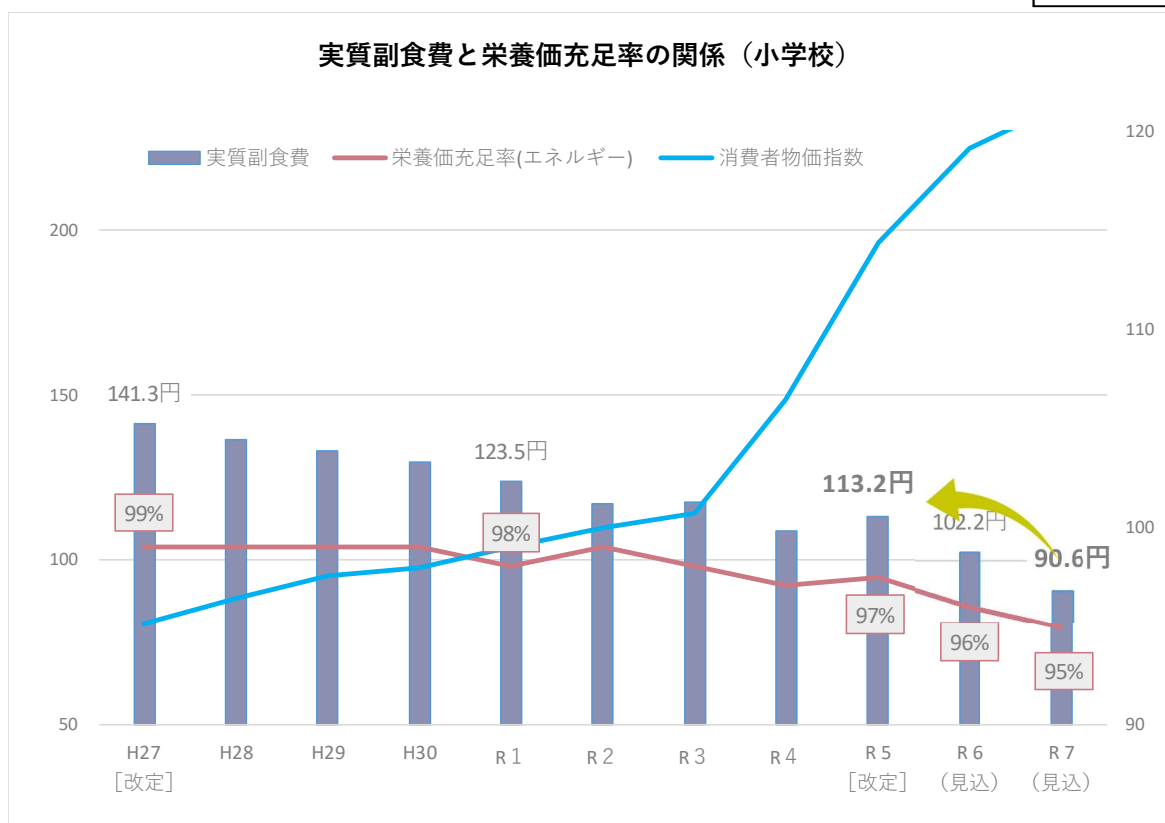
以上

資料 1

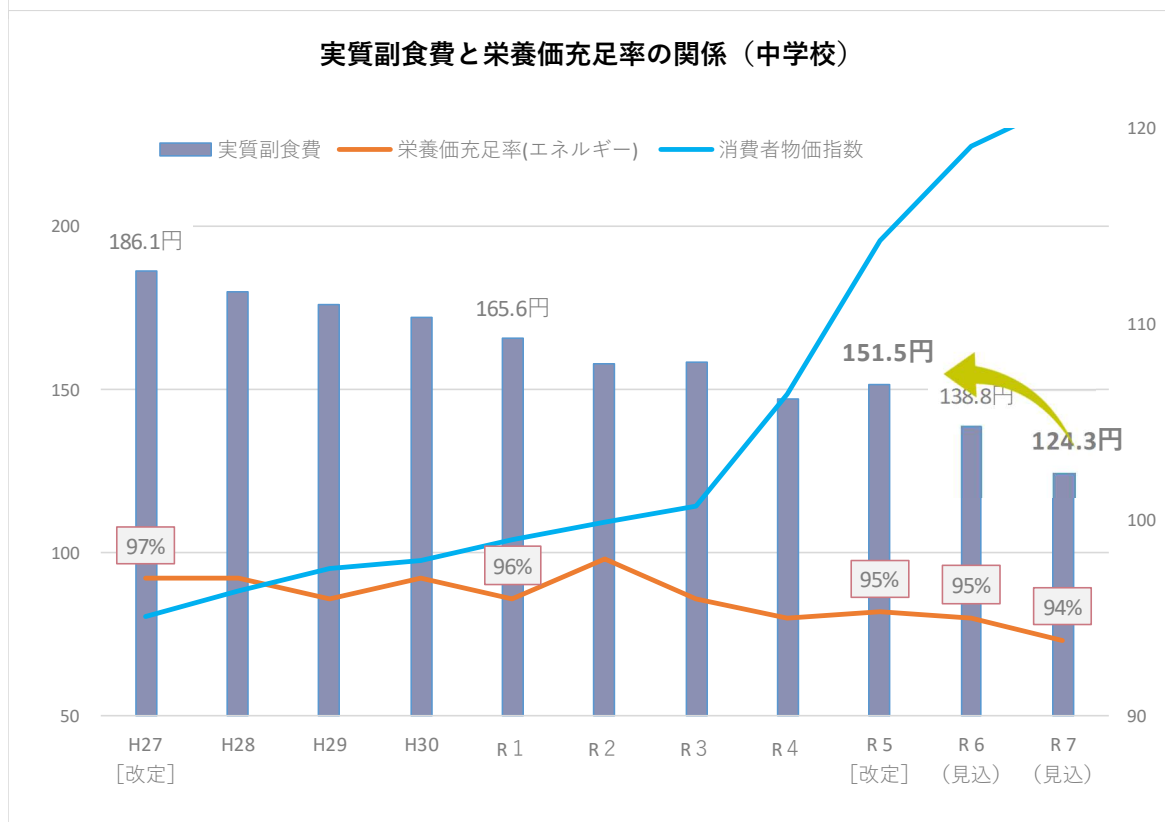
消費者物価指数と学校給食費基金・食糧費の推移



実質副食費と栄養価充足率の関係（小学校）



実質副食費と栄養価充足率の関係（中学校）



実質副食費…各年度の給食費から1食あたりの固定費（主食・牛乳・配送委託費）を差し引いた値に、各年度の平均消費者物価指数で割り戻した額をいう。